

平成31年度広島市立舟入高等学校入学式辞全文

本日ここに平成31年度広島市立舟入高等学校入学式を挙げるにあたり、多くのご来賓のご臨席を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

さきほど、322名の入学を許可いたしました。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。きょう皆さんに出会えた幸運に感謝いたします。

君たちは等しく舟入高校の生徒となりました。そして、等しく制服に身を包み、授業に参加し、クラスの生徒と過ごし、学習することになります。舟入高校という共通の場に居合わせて、互いを理解し、友人と共に切磋琢磨する喜びを知ってほしいと願っています。

「互いを理解する」とは人と自分がどのように違っているか知ることです。「趣味が違う」、「好みが違う」などのありきたりな言葉で人を分類することではありません。気の合う人だけを仲間にするということでもありません。過去にも未来にも、そして現在にも君と同じ人はいません。人間は多様なのです。互いの理解は、多様な人が、同じ場所で共に活動していくための前提です。この意味を込めて「等しく舟入高校の生徒となった」と申しあげました。

また、「切磋琢磨する」とは、より広い世界を目指して、自分の殻を破っていきうとすることです。それは、自分や仲間にとっての進歩を互いに喜ぶためであって、決して、人より優れていると感じるためではないし、人と同じになるためでもありません。

君たちは、今日から否応なく「まだ見ぬ世界」に出会います。君は驚き、戸惑うことでしょう。新しいものには、わかりにくさがつきまといまいます。ドイツの哲学者ヤスパースは言いました。

驚きを感じない者は、問わない。

秘密があることを知らない者は、探求しない。

わかりにくいもの、理解できないものにこそ君が学ぶべきものが潜んでいます。それを、探り出すことが学習です。

高校で学ぶ教科には、それぞれ後ろ盾となる学問があり、それぞれの感性や考え方があります。

人には、それぞれ大切にしているもの、好み、感じ方があり、人それぞれに異なっています。

多くの教科を学習し、大勢の人とともに活動することは、驚きに出会う機会で

す。こうして君に「学ぶ」チャンスが訪れます。ですから、わかりにくいものを「必要がない」「好みに合わない」と切り捨ててはいけません。すぐにわからなくても、わからないまま取り込んでおくこと。そして、ああでもない、こうでもないと取返して遠回りして考えてみることに。それを楽しむこと。これが、世界に向けて心を開く構え方です。

君の思考が鍛えられ、遊び心がうごめきはじめると、君の世界は内側にも広がっていきます。そして「まだ見ぬ自分」に変わったとき、学んだといい、殻を破ったというのです。その瞬間が、君に訪れてほしい。スペインの哲学者オルテガの言葉です。

しっかりと見開かれた瞳にとっては、

この世にあるすべてのことが驚きであり、不思議である。

「驚き」への応じ方は、君の個性、遊び心、そして謙虚さを示すものです。対処方法を示唆してくれる大人はいます。しかし、その示唆と現実の隙間を埋めるのは君自身です。物やサービスでは埋められません。周囲を都合のよいもので固めてしまうと、君の世界は薄っぺらになる。そうなるのは欲しくないから、自分ひとりで考える時間、遠回りする時間を大切にしてほしい。そして、人にもその時間を保障してほしい。それは、共に切磋琢磨する友人への配慮でもあります。

保護者の皆様。おめでとうございます。生徒は新しいものに出くわして戸惑います。大人が先回りして道を整えてやる。そういったサービスも可能でありましょう。しかし、彼らの戸惑いは成長の種です。彼らには殻を破って芽を出してもらいたい。だからこそ、生徒が望むことでも、させないことがあります。気が進まないことでも、取返してさせることもあります。どうか、ご理解ください。本校の生徒は、仲間と支え合って、高いハードルを越えようとしています。たとえ失敗しても再度チャレンジするでしょう。このような生徒たちを私どもは誇らしく思います。将来、校訓を体現する大人もなっていくことを楽しみに、私どもは、全力で支援をいたします。保護者の皆様には、本校の考え方にご理解をいただき、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成31年4月6日
広島市立舟入高等学校
校長 日浦 毅